

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな 経済フラッシュ

## (日本12月調査日銀短観)

2018/12/14

りそなホールディングス 市場企画部



### 〇概況

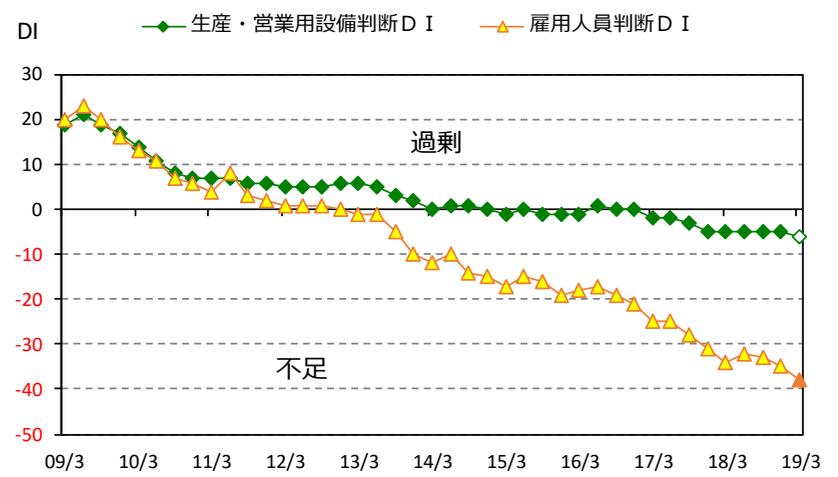
- ◆ 大企業・製造業の業況判断DIは9月調査から横ばい
- ◆ 2018年度の想定為替レートは109円41銭
- ◆ 2018年度の設備投資計画は引き続き強い

- ✓ 大企業の業況判断DI（業況が「良い」と回答した企業－「悪い」と回答した企業）は、製造業は前回調査から横ばい（19→19）、非製造業は上昇（22→24）した。先行き判断は、製造業、非製造業ともに現状から低下。現状の業況判断は7-9月期の自然災害の悪影響からの回復等を反映して市場予想を上回ったものの、先行きの業況悪化を警戒する内容となった。
- ✓ 事業計画の前提となる2018年度の想定為替レート（大企業・製造業）は1ドル109.41円で、9月調査（107.40円）から約2円円安方向に振れた。2017年度（1ドル110.79円）との比較では円高方向。回答期間の市場レートは1ドル112～114円台だった。
- ✓ 大企業における需給判断DI（「需要超過」－「供給超過」）は国内向け製造業（1→▲1）と「供給超過」に転じた。一方、非製造業（▲5→▲6）は「供給超過」幅が拡大。海外向け製造業は3（9月時点：4）、先行きの判断は0だった。
- ✓ 全規模全産業の雇用人員判断DI（「過剰」－「不足」）は▲35と、9月時点（▲33）からマイナス幅が拡大。業種別では、製造業（▲27→▲28）、非製造業（▲38→▲40）と共に不足感が強まっている。
- ✓ 全規模全産業の生産・営業用設備判断DI（「過剰」－「不足」）は▲5（9月▲5）。業種別では製造業が▲6（9月▲6）、非製造業が▲6（9月▲4）。非製造業で不足感がやや強まった。
- ✓ 2018年度の大企業・全産業の設備投資（ソフトウェアを含み土地を除く）の計画は、前年度比+10.4%。9月調査（+10.3%）からは+0.1%pt上方修正され、設備投資計画は引き続き強い。
- ✓ 2018年度売上計画は、大企業・全産業で前年度比+3.3%（9月調査+2.3%）、内訳は製造業が+3.4%、非製造業が+3.2%と増加を見込む。また、中堅企業では、全産業で+3.3%と増加の見通し（製造業：+4.1%、非製造業：+3.0%）。中小企業は全産業で+1.1%と増加の見通し（製造業：+1.7%、非製造業：+1.0%）。

### 【大企業業況判断DI（「良い」－「悪い」）】

業種	DI (%ポイント)	業況判断				変化幅			
		2018		2019		2018		2019	
		6月 実績	9月 実績	12月 予測	3月 先行き	9月	12月	3月	
大企業	製造業	21	19	19	19	15	-2	0	-4
	非製造業	24	22	22	24	20	-2	2	-4
	全産業	22	21	20	21	18	-1	0	-3
中堅企業	製造業	20	15	13	17	11	-5	2	-6
	非製造業	20	18	15	17	13	-2	-1	-4
	全産業	20	17	14	17	12	-3	0	-5
中小企業	製造業	14	14	11	14	8	0	0	-6
	非製造業	8	10	5	11	5	2	1	-6
	全産業	11	12	7	12	6	1	0	-6

### 【全産業全規模 雇用・設備投資判断DI】



【出所】IN情報センター

◎注意事項  
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。